

News Letter

ニュースレター

1 THE LONDON PROTOCOL 2024 日本語版を作成・公開

この度、群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センターが中心となり、「臨床インシデントのシステム分析:ロンドン・プロトコル2024(SYSTEMS ANALYSIS OF CLINICAL INCIDENTS: THE LONDON PROTOCOL 2024)」を翻訳し、日本語版を公開しました。

本書は、インシデント分析の国際的な枠組みであるロンドン・プロトコルを、最新の知見と臨床実践に基づいて改訂した最新版です。ロンドン・プロトコルは、インシデントを個人の失敗としてではなく、医療システム全体の問題として捉えるための体系的な分析フレームワークです。今回の改訂では、患者・家族の参画の重要性がより強調され、長期にわたる経過の検討や患者の旅路(patient journey)の複数時点での寄与要因の評価といった新たな視点が取り入れられています。また、再発防止にむけた勧告を行うためのアプローチや報告書の作成方法が具体的に示され、より実践的な内容となっています。

この日本語版が、日本の医療現場における多職種連携を基盤とした体系的な分析能力の向上と、より効果的な再発防止策の策定に貢献することを強く期待しています。

医療安全管理者、リスクマネジャー、および教育担当の皆様は、施設内研修やインシデント分析にご活用ください。

【入手方法】

PSECウェブサイト (<https://psec.med.gunma-u.ac.jp/>) からダウンロード可能です。

The screenshot shows the homepage of the PSEC website. At the top, there is a navigation bar with links for "概要", "取組紹介", "ニュースレター", "活動実績", and "資料集". Below the navigation bar, there is a large banner for "多職種人材育成のための医療安全教育センター(PSEC)". On the left side, there is a sidebar with "新着情報" and "各種資料" sections. In the "各種資料" section, there is a red box highlighting a link labeled "London Protocol 2024". A red arrow points from the text "こちらから" (From here) to this highlighted link.

臨床インシデントの
システム分析：
ロンドン・プロトコル
2024



2 第20回 医療の質・安全学会にて「職種共通の日本版医療安全コンピテンシーフレームワークを作ろう（患者安全部門編）」を開催

2025年11月8日「第20回医療の質・安全学会学術集会」において、『職種共通の日本版医療安全コンピテンシーフレームワークを作ろう』をテーマとしたセッションを開催し、田中和美副センター長が座長を務めました。医師、看護師、薬剤師といった幅広い職種の参加がありました。

千葉大学の清水郁夫先生から、各職種モデル・コア・カリキュラムにおける医療の質・安全領域の取り扱いと、各国の医療の質・安全コンピテンシーについて発表がありました。

その後、各職種における医療安全教育についてグループに分かれてディスカッションを行いました。患者安全コンピテンシーフレームワークとして、理念を重視すべきか、資質・能力を重視すべきかという問い合わせに対しては「理念と資質・能力のどちらも必要だ」という意見が多く、具体的な提言案については「カリキュラムと現場をいかにつなげるかが重要である」「目指す方向はどの職種でも同じであり、共通言語が必要ではないか」という意見があり、活発なディスカッションが行われました。

東京医療保健大学の西村礼子先生から、看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂における調査研究の概要や、ケアの質と安全の管理（Quality and Safety : QS）について詳しく説明がありました。本セッションでは、多様な職種の視点を互いに共有し、我が国の患者安全コンピテンシー策定の提言案づくりに向けた議論を深める貴重な機会となりました。



3 第91回 医学教育セミナーとワークショップ in 東京で ワークショップを開催

2025年5月31日「第91回 医学教育セミナーとワークショップin東京」においてワークショップ『カリキュラムに医療安全教育を組み込むには?』を開催しました。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士など、多職種から18名の参加がありました。

冒頭では田中和美副センター長から「最近の医療安全教育」について講義がありました。その後グループに分かれ、参加者の各施設における医療安全教育の現状と課題を共有し、問題に対する原因を検討するワークに取り組みました。このワークでは、Steinertの学習に係る問題の枠組み^{※1)}を用いて、知識、技能、態度、教育者、学習者、システムに問題の所在を分類しました。各項目における問題点を整理することができたことで、課題に対する具体的な対策について活発な議論が行われました。

千葉大学清水郁夫先生からは「患者安全教育をカリキュラムに取り入れる」という講義があり、各職種における臨床実習（臨地実習）場面での学びを検討するワークを行いました。参加者からは、診療場面におけるインシデント発生場面だけでなく、診療業務を教える際にも医療安全の視点を加えて教育することも可能であるという気づきが得られたと、好評を得ました。各職種の視点を持ち寄り議論することで、参加者それぞれが学びを深め、医療安全教育の普及につながる実践的なワークショップとなりました。

※1) Steinert Y. The "problem" learner: whose problem is it? AMEE Guide No. 76. Medical Teacher. 35(4)e1035-45. 2013



発行

多職種人材育成のための医療安全教育センター(PSEC)
<https://psec.med.gunma-u.ac.jp/>



PSECでは、ホームページにおいて、医療安全教育手法に関する動画や、資料等を提供しています。ぜひご覧ください。